水害リスクマップについて

国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課　水防企画室

令和５年２月

水害リスクマップについて

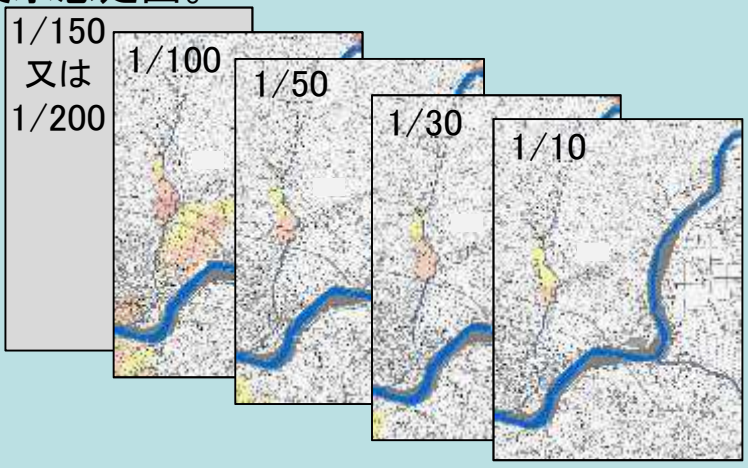
国土交通省

国や都道府県では、これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に活用する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表してきました。

国土交通省では、これに加えて、土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択など、流域治水の取り組みを推進するため、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した浸水想定図（「多段階の浸水想定図」）と、それらを重ね合わせて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ」を作成・公表することとしました。

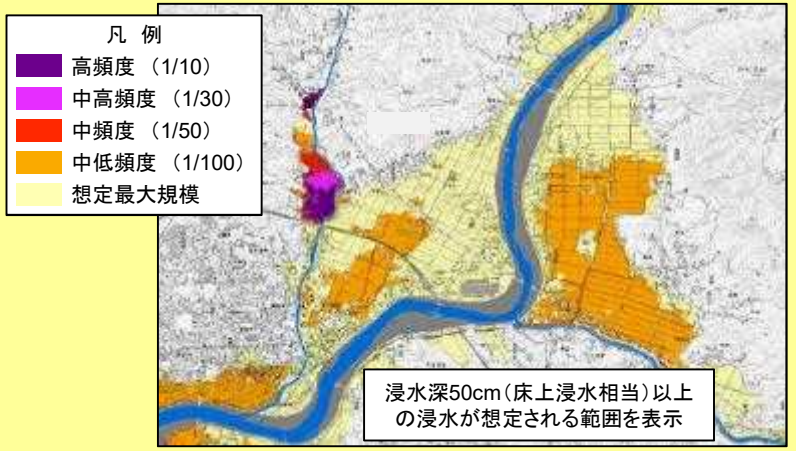
【多段階の浸水想定図】

想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模毎（1/10、1/30、1/50、1/100、河川整備の計画規模（1/150又は1/200））に作成した浸水想定図。



【水害リスクマップ】

多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m以上、0.5m以上（床上浸水）、3.0m以上（1階居室浸水））に重ね合わせて作成した図面。

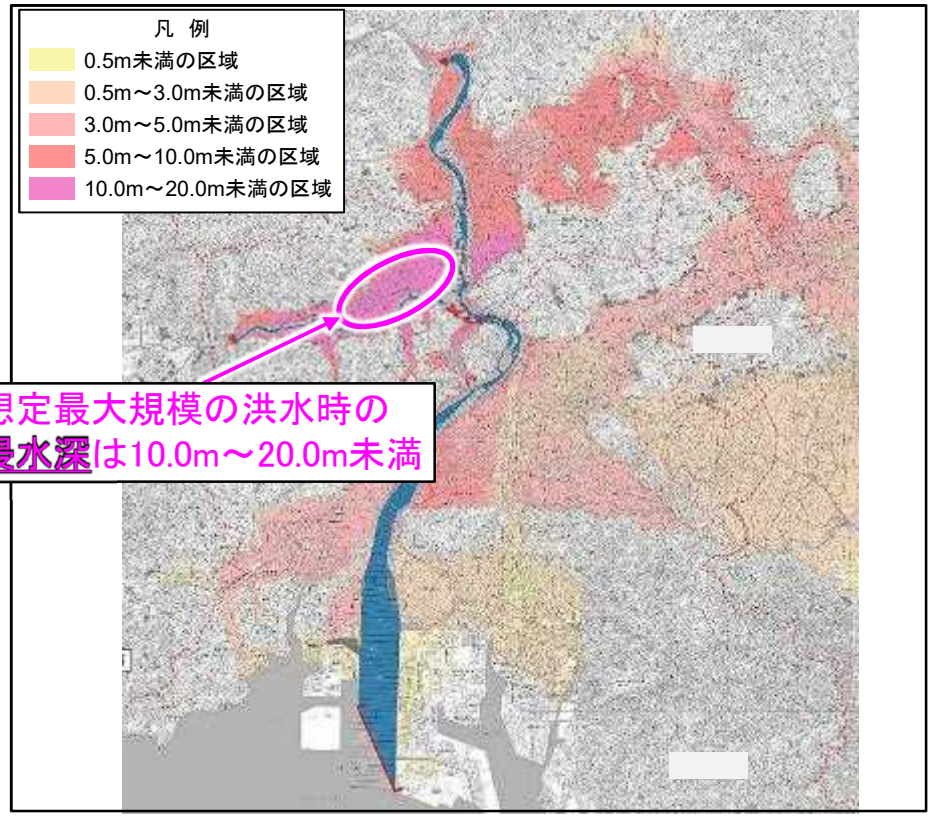


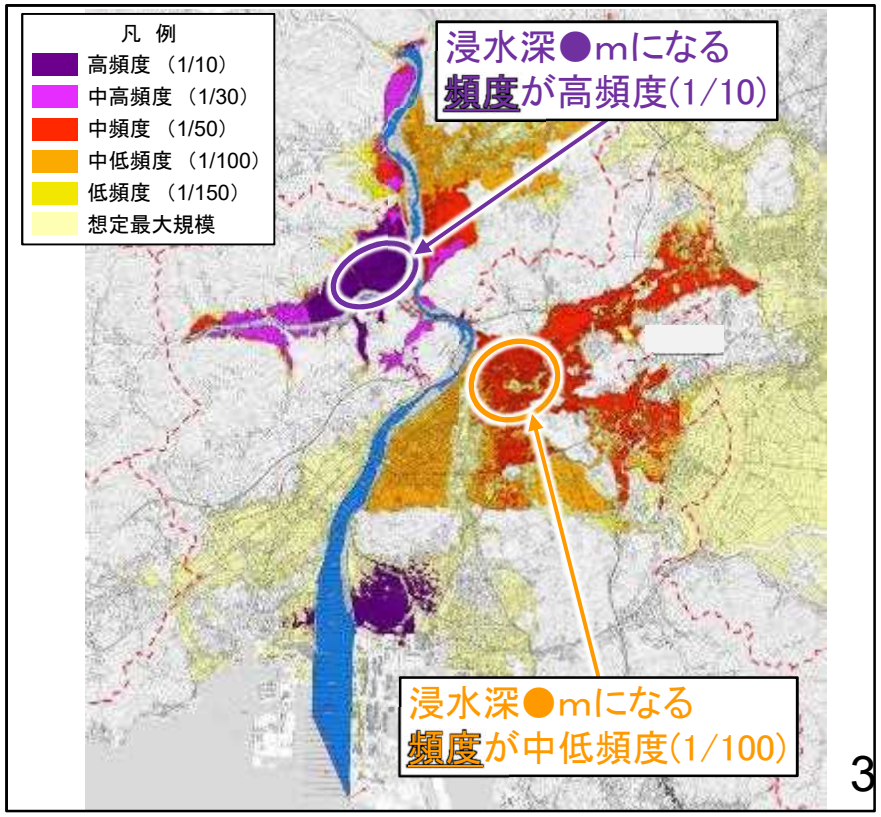
2

洪水浸水想定区域図と水害リスクマップの違い①

国土交通省

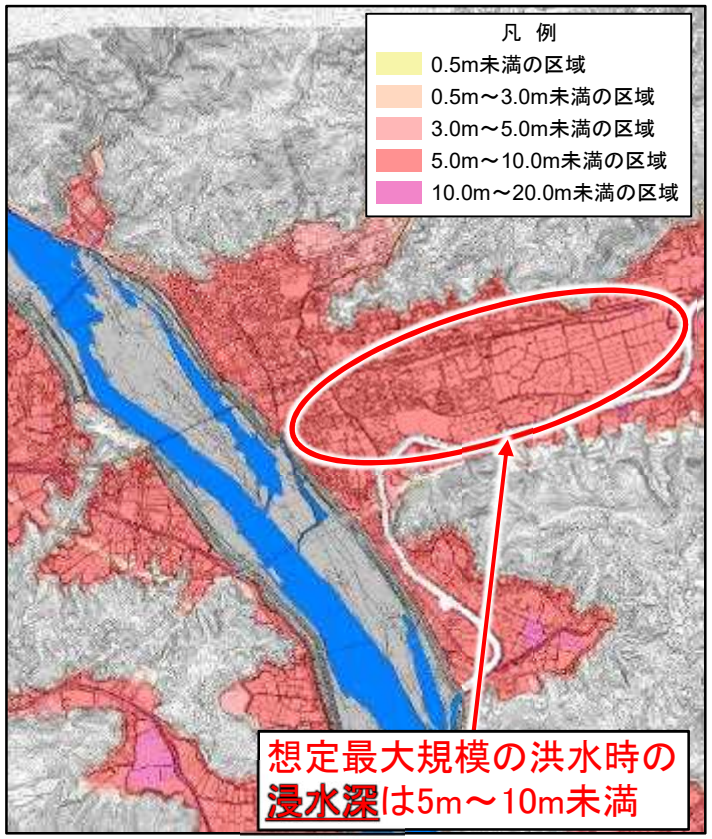
	洪水浸水想定区域図	水害リスクマップ （浸水頻度図）
表す情報	浸水範囲、浸水深（m）	浸水範囲、浸水頻度（○○年に1度程度）
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	想定される最大規模の降雨	発生頻度の異なる降雨
河道の時点	現在	現在及び河川整備後



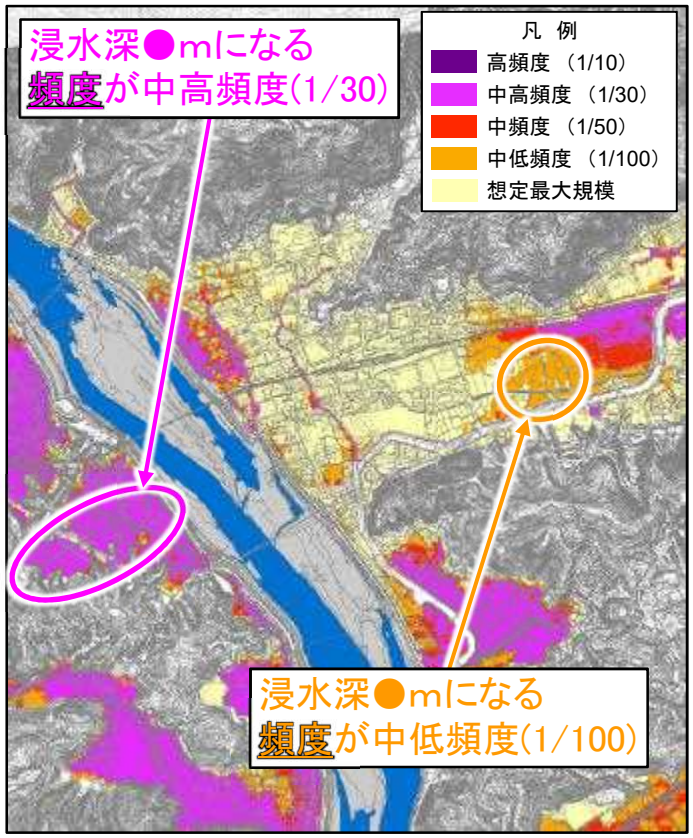


洪水浸水想定区域図と水害リスクマップの違い②

国土交通省



洪水浸水想定区域図
（想定最大規模）

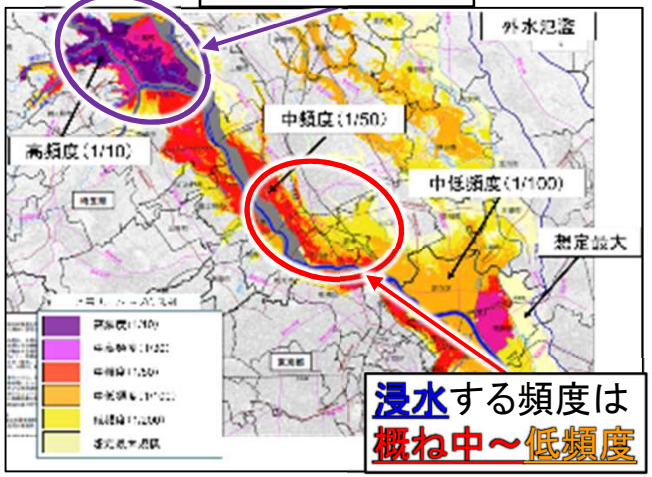


水害リスクマップ
浸水深3m以上（1階居室浸水相当以上）

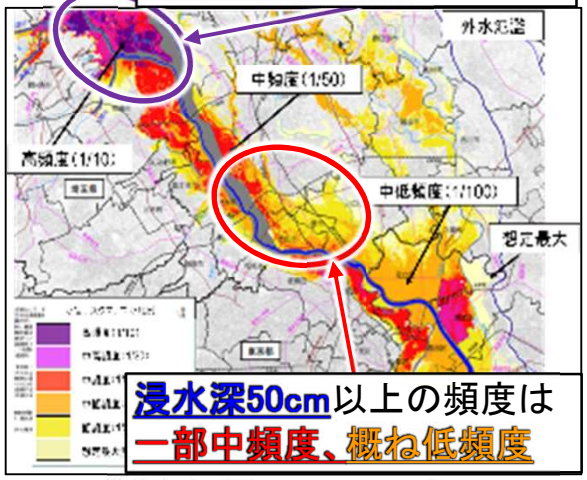
- 洪水浸水想定区域図は、最悪の事態を想定して命を守るという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としています。
- 水害リスクマップでは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握できます。

水害リスクマップの見方・活用例

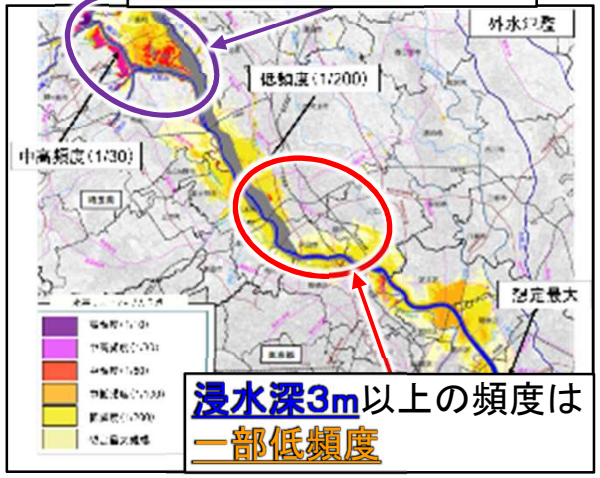
国土交通省



①浸水する範囲



②浸水深50cm以上
（床上浸水相当以上）



③浸水深3m以上
（1階居室浸水相当以上）

3つの図を並べて見比べる

⇒【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】
居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられます。

⇒【企業立地選択等に利用する場合】
浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられます。

⇒【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】
立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられます。

水害リスクマップポータルサイト

国土交通省

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令 和 4 年 12 月 14 日
水管理・国土保全局河川環境課
国土技術政策総合研究所河川研究部

河川氾濫による浸水の頻度を見える化（国管理河川）

～水害リスクマップ（浸水頻度図）のポータルサイトを開設～

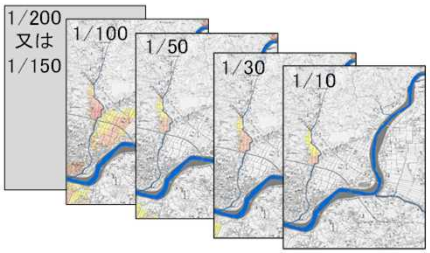
国土交通省では、これまで、住民の避難等を目的として、洪水ハザードマップのもとなる洪水浸水想定区域図（想定最大規模の洪水を対象）を作成・公表してきました。これに加え、今般、防災まちづくりや企業立地の参考となることを目的として、「水害リスクマップ（浸水頻度図）」を作成し、ポータルサイトを開設しました。

水害リスクマップ（浸水頻度図）は、多段階の浸水想定図（発生頻度は小さいものの浸水範囲が広い大規模な洪水や、浸水範囲は狭いものの発生頻度が高い小規模な洪水など、様々な規模の洪水の浸水想定図）を重ね合わせたものであり、今回開設するポータルサイトでは、全国の国管理河川の水害リスクマップと多段階の浸水想定図をまとめて確認することができます。

今後、水害リスクを踏まえた、まちづくりや企業の立地選択等での更なる活用促進に向け、流域治水協議会等を通じて情報共有を図り、議論を深めてまいります。

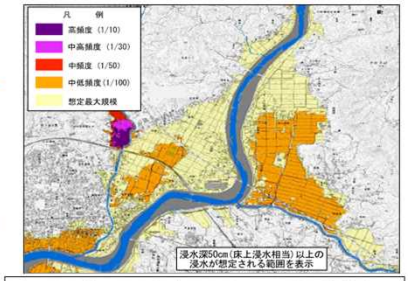
※https://www.mlit.go.jp/river/kasen/ryuiki_pro/risk_map.html

多段階の浸水想定図



○ 高頻度から中頻度で発生する降雨規模毎（年超過確率 1/10、1/30、1/50、1/100、1/150 又は 1/200）に作成した浸水想定図。
○ 今回公表する図は、国管理河川からの氾濫による浸水のみを対象。

水害リスクマップ（浸水頻度図）



○ 多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m 以上、0.5m 以上（床上浸水以上）、3.0m 以上（1 階軒下浸水以上））に重ね合わせて作成した図面。
○ 今回公表する図は、国管理河川からの氾濫による浸水のみを対象。

※一定の条件下でのシミュレーション結果であり、雨の降り方や内水も含めた浸水形態によっては実際の浸水状況と異なる場合があります

【問い合わせ先】
水管理・国土保全局 河川環境課 水防企画室 水防企画官 白波瀬（しらはせ）、係長 岡安
TEL：03-5253-8111（内線 35453、35456）直通：03-5253-8460 FAX：03-5253-1603
国土技術政策総合研究所 河川研究部 水害研究室 主任研究官 武内、研究官 山本
TEL：029-864-2211（内線 3582、3583）、直通：029-864-7627 FAX：029-864-2688

水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図一覧

水害リスクマップ一覧 - 国土交通省水管理・国土保全局

開発局・地方整備局	水系	水害リスクマップ（浸水頻度図）			多段階の浸水想定図						事務所等HP
		浸水深0.0m以上（浸水あり）	浸水深0.5m以上（床上浸水相当）	浸水深3.0m以上（一階居室浸水相当）	降雨規模						
					1/10	1/30	1/50	1/100	1/150	1/200	
関東	荒川水系	●	●	●	●	●	●	●		●	荒川下流河川事務所
関東	利根川水系（利根川・江戸川）	●	●	●	●	●	●	●		●	利根川下流河川事務所
関東	利根川水系（中川・綾瀬川）	●	●	●	●	●	●	●			江戸川河川事務所

令和4年12月に全国の国管理河川（109水系）の水害リスクマップと多段階の浸水想定図をまとめたポータルサイトを開設。

https://www.mlit.go.jp/river/kasen/ryuiki_pro/risk_map.html